

温室効果ガス削減 政府の責任ただす

島津議員・環境委

島津幸広衆院議員は5月29日の環境委員会で、地球温暖化対策について質問しました。

島津氏は、年末に開催されるCOP21(国連気候変動会議)にむけて、ヨーロッパ各国が温室効果ガスの削減目標を1990年基準で定めるなか、取り組みの遅れている日本が基準年を2013年とすることは、削減が比較的進んでいるアメリカやEUと削減目標数値を同等

のように見せかけるものと批判。日本で、二酸化炭素の排出が石油や天然ガスよりも多い石炭火力発電所の建設ラッシュが起きており、とくに環境アセスメントの対象外と



なる出力11・25キロワット未満の小規模石炭火力発電所が各地で計画され

ている実態を示し、「政府が知らないところで次々と建設されていく。これで本当に温室効果ガスの削減に責任が持てるのか」と迫りました。

これに対し、望月義夫環境相は、「新増設の計画が相次いでいることに私も懸念を持っている。環境省としては、今までと違って業界任せではなく、積極的に検討するような事務方に厳しく指示をしている」と答えました。

名古屋環状2号

家屋補償誠実に

本村議員・国交委

井上さとし参院議員は5月30日、三重県津市で、県安保放棄諸要求貫徹実行委員会が開いた学習会に参加し、日本を「海外で戦争する国」につくりかえる戦争法案の本質について語りました。緊迫した情勢を受けて会場は約130人の参加者で超満員になりました。

本村伸子衆院議員は5月29日、国土交通委員会、名古屋環状2号線と同高速道路に並行する国道302号の工事と関連工事によって生じた名古屋市天白区、緑区の家屋等への被害について質問し、被害調査・評価をやり直して周辺住民に誠実に対応することを求めました。



の損失補償を行っています。しかし、調査が不十分な部分があり、補償範囲が

井上氏は志位委員長の問題などで浮き彫りになった同法案の問題点を詳しく説明。法案の危険な中身を急いで国民に知らせ、「戦争する国」づく

り反対の一点での共同を大きく広げるよう呼びかけました。また、在日米軍の強化や自衛隊の海外派兵部隊化、隊員確保のための自治体への働きかけや学校教育への介入など「戦争する国づくり」の実態を明らかにしました。

会場からの『中国の脅威』を感じる人にどう働きかけるか』との質問に、井上氏は「安倍政権のような軍事中心では関係は悪化する。北東アジアの平和と安定に逆行している」と強調し、経済的な結びつきの中でアメリカも中国も軍事衝突はできないことなどを指摘しました。

本村氏は、河村たかし名古屋市長から、NEXCO中日本に対して、住民に対する丁寧な対応を求める要請文書が3回にわたって出されていることを指摘。工事期間中、屋内車庫3カ所に亀裂が入り、家屋の周り4カ所に最大で直径40センチメートルもの穴が開いた被害を受けながら、工事に関係がない「経年変化」とされた事例を紹介。工事との因果関係がないという評価はおかしいとただしました。

太田昭宏国交相は、「住民の方々の理解が得られる丁寧な説明を行うよう指導してまいります」と答えました。

戦争法案の危険性語る

井上議員 三重

